

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 072	提案機関名 横浜農業協同組合
要望問題名 エコフィードの活用	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 海外から輸入される穀類価格は、燃油高騰、天候悪化、流通や為替高騰など多くの事情を含んでいる。 国内では価格高騰に対応するため、休耕田の利用による飼料用米、稲発酵飼料生産、食品工場で発生する食品クズ、スーパーの売れ残り食品などのフードロス有家畜の飼料とし再利用することが検討される。 流通や為替、天候などの影響により、世界の穀物事情は厳しいものになる。飼料化の要因として嗜好性の良いもの、栄養粗に対応できるもの、体内で利用され、消化吸收のよいもの、経済的で環境に配慮される、これらの要件を満たした新飼料の中で肉牛肥育、乳用搾乳に容易に給与できる組合せを開発願いたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 肉用牛に対する食品残さの飼料化試験 神奈川県畜産研究所研究報告第90号、92号、89号 トウモロコシを利用した黒毛和種肥育試験 神奈川県畜産研究所研究報告第95号		
対応の内容等	当所では、県内で発生する食品残さの家畜飼料等への利用について試験を実施してまいりました。また、全国的にも様々な研究が行われ、日本飼養標準飼料成分表にもエコフィードの栄養価や消化率が紹介されています。 要望にあります新たなエコフィードについては、県と関係機関とで構成する協議会が取り組んでいる飼料高騰対策と連携して情報収集を行い、活用できそうなものは飼料成分分析や嗜好性、安全性等を検討したうえで、給与試験を実施して行きます。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			